函館市立幼稚園のあり方検討協議会（第２回）会議録

日　時	平成２８年３月２３日（水）　１８：３０～２０：００
場　所	函館市役所５階　教育委員室
出　席	委　員 （会長）　鳴　海　　裕（函館市小学校長会副会長） （副会長）齊　藤　　縁（北海道教育大学附属函館幼稚園副園長） 乳　井　英　雄（函館大谷短期大学教授） 髙　松　優　子（函館市ＰＴＡ連合会副会長） 木　村　一　雄（函館市私立幼稚園協会会長） 事務局　小　山　みゆき（学校教育部長） 齋　藤　利　雄（学校教育部参事） 田　中　麻衣子（学校教育部学校教育課主査） 笹　原　詩　織（学校教育課主事）
欠　席	なし
傍　聴	２名

１　開　会

会議の公開と報道関係者の取材を承認。

出席者５名。過半数を超えているため，会議成立。

２　学校教育部長あいさつ（小山部長）

３　審議

（鳴海会長）

皆さん，こんばんは。それでは，教育委員会で用意した資料があるので，その説明をお願いしたい。

≪事務局より，資料説明≫

（鳴海会長）

資料１から６，参考として「市民の声」について，資料の説明があった。

今の説明いただいた資料もご覧になりながら，審議に入りたい。

本日２回目ということで，それぞれの園の存廃について，ある程度，今日は，方向性をこの協議会としてまとめていければと。最終的には委員会で決定していくわけだが，そういう形で進めていきたいと思う。

それでは，まず前回もそれぞれの皆様からご意見をいただき，ある程度の方向性は見えているが，はこだて幼稚園について，続いて戸井幼稚園について，それぞれの園ごとの存廃について，皆様から意見をいただければと思っている。

まず，はこだて幼稚園について，総務常任委員会での質疑，新聞報道等があったが，皆様から意見をいただきたいと思う。はじめに，髙松委員お願いします。

（髙松委員）

この「市民の声」の１ページ目を読んだが，実際通われている人にとっては，なくなるってことは一大事だと思うが，前回言ったように，それだけ場所をまかなえる条件が整わないのであれば，申し訳ないけども，仕方ない決定もしなければいけないと思うのと，その代わりになる受け皿がないわけではないと思うので，理解していただくしかないと思う。今は，はこだて幼稚園の話だが，戸井幼稚園の方も，近いところで１１キロや２３キロという距離のところしかないと書いているが，そういう距離でも実際，幼稚園では送迎バスを出したりしているのを見るので，対処のしようはあると思う。

（鳴海会長）

ありがとうございます。「市民の声」を読むと，通わせている園児の保護者の方のご意見ではないかと読みとれるが，保護者の立場からのご意見ではこういうご意見が出てくるのは当然かなと思う。それはそれとして，前回の話もあったように，存続することの意義だとか，今後の受け皿の話もあったが，考えていくと，やはりやむなしというご理解をいただく必要があるのかなと。その辺の説明は，委員会でそういう場も設けながらご理解いただくということになるとは思うが，丁寧な説明についてどうぞよろしくお願いしたい。齊藤委員お願いします。

（齊藤委員）

はい。前回会議に参加させていただいて，すぐ３月１日の新聞を読んだときに，こちらの協議が出ていた。「市民の声」と同じような考えを持つ人が多いだろうと思った。函館新聞さんが廃園検討となっているのに対して，北海道新聞さんは３年後に閉園とはっきりと大きな見出しで書かれていた。第１回目の検討委員会が終わった時点で，もうこのようにして，新聞に大きく出たということは正直申し上げ

て，私どもも少しびっくりしたところだ。それでもこのように検討協議会が始まって，いろいろ今回は存廃についてお話をしていくということになったときには，この資料「市民の声」を用意していただいたが，「市民の声」，これは保護者の方だろうと思われるが，この中で何回も書かれている選ばれし５人であるから，いろいろな立場から考えて納得できる回答をしなければいけないということがあると考える。特に，一番最後の全部の角度から見ても納得できる形，その全部の角度というのは，ただ単に定員割れが続いていたとか，それから今後の見通しとして園児が少ないからということだけでは，このような角度から見て納得できることにはならないわけで，はこだて幼稚園に関しては，いろいろな角度をそれぞれ考えながら納得できるような形の話をしていけないだろうかと私は思っている。

（鳴海会長）

ありがとうございます。総務常任委員会の質問を受けて廃園ありきという前提でいう形では議論を進めないようにいうご意見があったと新聞記事からは読めますが，「市民の声」にあるような保護者のご意見も充分ふまえながら，５名の学識経験者・教育関係者だけでの話し合いだとかいう，そういうこともこれとしてあるのだが，我々は決定する立場ではないので，委員から指摘のあった様々な角度から，そのために５人こう選ばれてこの場にいると思うので，ご意見をいただきながら，議論を進めていきたいと思う。木村委員お願いします。

（木村委員）

「市民の声」，今日見させていただいたが，そもそもは，函館で，はこだて幼稚園が現在本当に必要な施設なのかどうかっていう考え方に立つと，私は，もし存続するということであれば，今は函館でも認定こども園で０歳児から預かる施設になるのであれば意味もわかるが，幼児教育のみの研究だけしかない市立の使命は考えてみたときにはもうないのかなと思う。ただ，子どもを通わせている保護者からすれば，なくなることは寂しいことだと思う。私立幼稚園の場合は，経営が立ちゆかなくなれば，保護者がいくら存続させてと言っても，もう現実的に３園ほどなくなっている。私立は，逆に言えば，それだけ厳しいところに競っていながらも，「市民の声」の中にはいろいろな特色と書かれているが，そもそも宗教法人が建てようが，どこが建てようが，基本理念の学校教育法の基盤に立ってその上での特色であるから，私立にもその上積みはある。子どもを通わせている保護者は，ただ反対だというようにしか見えない。函館市にとって，本当に，はこだて幼稚園が今必要ですかと，問いただしたときには，今日も，はこだて幼稚園の前を通ったが，認定こども園が目の前にある。向かい同士で幼児教育をする必要性は何もない気はしてい

るし，そういう意味では，はこだて幼稚園は，今後とも廃止を目指すべきだと私は考える。公のお金を使っているということを考えると，ましてや新制度に移行するとなると国のお金も入ってくるということになるので，そういう意味では公としての施設の存続は，もう無理ではないかなと私は考える。

（鳴海会長）

ありがとうございます。前回もあったが，新制度への移行の対応についても，私立は先んじて様々な対応をしてきている。教育要領に則ったっていう部分は，幼稚園として変わらないわけだが，その辺，改めて，はこだて幼稚園が形を変えてっていうようにはなかなかならない，難しいとは充分わかるように思う。そうしたなかで，公の市立としての存続についてはどうなのかという意見もあった。ありがとうございます。乳井委員お願いします。

（乳井委員）

視点は一緒になってしまうが，公立の幼稚園とは何だろうというところは大きい。まず，高松委員の意見でよいと思ったのは，要するに，代わりの幼稚園はいくらでもあるということ。この市民の意見には書かれているが，宗教の話，結局代わりの幼稚園の中には無宗教のところもある。選択肢は相当数あるということが，まず１点。それから，はこだて幼稚園にはバスはないので，ここに通われている方は送り迎えで全市からきているということだが，全市の幼稚園がすべて代わりの幼稚園としての対象になり得る。そう考えるときに，今回の資料には前回，齊藤委員が言ってくれた資料が付いているが，これらの理念を追求するという形の公立幼稚園があるべきなのかどうかというときに，これを実現するのは，これからは認定こども園だろうという考え方ではないのかなというように思う。会長がおっしゃったように，今のままの状態でスタイルを変えるのは難しいっていうことになれば，一回は閉じなきゃいけないっていうことだろうし，それが未来永劫なくなるっていう考え方では僕はない。要するに，こういう策定したものを実現するために復活させるのであれば，認定こども園で復活してほしいという，そういうことになる。公立としての地域のリーダーシップを担う，あるいは子育て支援を含めたいろんなモデルケースを公立として提供するということは，もちろん大切なことであるから，それは目指してほしいが，そのときには，これからの時代はどう考えても認定こども園だろうという考え方だと思う。それが何年後か，あるいはないのか，それはわからない。この会議で検討することではないと思う。ただ，スタイルとしては，そういう方向性で，とりあえず今は閉じなければならないだろうっていうこと。とりあえず今は，という話であって，他でも当然こういうことは検討していると思うので，

地域の幼児教育全般を含めた施策の中で必要であれば，また復活してもらいたい。そのときには認定こども園，幼保連携型認定こども園で復活してもらいたい。そしてリーダーシップを握ってもらいたい。そういう発想に立たないと。もう手遅れではないかという気はするが，それができるかどうかわからない。考え方は木村委員と僕は同じように受け止めたので，これが公立であっても私立であっても，こういう声は出てくるだろうなと思っており，そういう意味では，残念なことは残念ですけれども，あらゆる意味で地域のトップに立ってもらいたいという希望もあるので，今のままではだめだということ。認定こども園にできるならなってほしい。それが廃止を通じて復活でなるしかないのであれば，それはそれで仕方がない。今は市立幼稚園を閉じるしかないということになるだろう。代わりの施設はたくさんある。選択肢もある。ということではないのかなと思う。

（鳴海会長）

ありがとうございます。はこだて幼稚園を閉じるということに関わっては，今の状況の中ではやむを得ないという状況。時代は，委員が言われた認定こども園，新制度に移行し，新しい形の保育と教育という形になるのだが，公立幼稚園としての優位性であった保育料だとかも，今はなくなっている。それから，研究のリーダーシップに関わって，これまで大きな役割を果たしてこられたのは事実だと思うが，今話した，変わってきていることに対して，はこだて幼稚園が今後どういうふうに対応していくかということは，なかなか難しいということで，前回もあったが，研究等については，具体的には，まだ教育センターの方で継続して研究を押し進めていくという話もあった。そんな状況で，今，我々が話していることが保護者に理解をしていただける内容なのか，充分ではないかもしれないが，その辺は教育委員会で意見を踏まえながら決定していただければと思う。そのほか何か補足するような意見はあるか。

（齊藤委員）

はい。

（鳴海会長）

齊藤委員。

（齊藤委員）

先ほどの，すべての角度からということの中で，私どもは国公立幼稚園の立場の角度の中で，はこだて幼稚園がもし無くなったとしたら，そして，その後に戸井幼

稚園も無くなるとしたら，こういうことが困るであろうということを話したい。

その上で，私の方からお話させていただく。

まず，ひとつは，現在，はこだて幼稚園で担っている役割の１つとして，函館市幼稚園・こども園協会と昨年度から名前が変わりましたが，こちらの方のリーダー，中心的な役割を果たしている。そして，はこだて幼稚園・こども園協会が今後もあれば，その主管をどのように考えていくかというところがまずひとつ。

２つ目には，北海道の国公立幼稚園協会。渡島・檜山・函館市は第３ブロックに位置しているが，こちらは，附属函館幼稚園とはこだて幼稚園が中心的に行っている。派遣や研究大会があり，今後もブロック持ち回りでこちらに来るので，それをどこが担当するのか。もし，はこだて幼稚園も戸井幼稚園も無くなるとしたら，附属だけでは到底できないので，そういうところはどのようになっていくかというところが２点目。

３つ目は幼小の接続の関係。幼小連絡協議会が毎年いろいろな，例えば，研究授業や保育そして実践交流などで繋いでいる部分も，はこだて幼稚園が担っているが，そこがもし無くなるとしたら，どうやっていくかというところが３点目。

４つ目は教育実習の受け入れ。現在，本学，北海道教育大学で幼稚園課程は無くなったが，それでも免許をとる学生さんはおり，昨年であれば，１３名教育実習が４週間入る。本園でも１０名を超えるとなかなか難しく，実習の４週間については，はこだて幼稚園に３名お願いしてやっていただいた。今後も教育実習に関しては，こちらの方で全部を受け入れるということはできないと思うので，そちらをどうしていくかということと関係させながら，例えば，函館市の小学校・中学校・高等学校を卒業して，函館の大学で幼稚園，幼児教育を勉強し，将来は幼稚園または子どもに携わる仕事をしたいと考えている大切に育ててきた人間が，その教育実習の場が国公立で得られず，そして本学で免許を取った人たちもほとんどこちらの方には残らず，今，幼稚園の先生は足りないが，ほとんど全道または全国レベルで散っているということを考えると，こうしてまた函館市の有能でがんばっていただきたい人材が外に流出していくということにも，大なり小なりつながっていくのでないかなということを考えていかなければいけない。

５つ目は，研修に関しては私立幼稚園さんもおっしゃったように何ら遜色はないところの部分はあると思う。ただ，これからは乳井委員がおっしゃったように認定こども園という立場で，一旦は閉じて復活していく意味というのは，今日資料につけていただいたものを考えても，函館市のなかでは必要ではないかなと私は考える。

（鳴海会長）
ありがとうございました。

（木村委員）
今，教育大の学生さんが，１３名の教育実習の話を聞いたが，今，東京あたりにいくとほとんどが四大生。短大生は保育園に行く方が多い。２級ですから。私立の幼稚園でも四大は採りたいっていうのはある。けれども，実際的に私立幼稚園の実態をみると，うちでも１級免許を持っている先生もいるが，それに道が補助金を出してくれている。それはいくらかわかりますか。１級免許状に雇っている私立幼稚園に補助金を出してくれています，北海道が。いくらだと思いますか。
７，６８３円。たしかそのくらいの金額だ。８千円いかない。年間ですよ，年間。それが１級を持っている方と，２級を持っている方のとの差っていうのが，年間で８千円しかなかったら，２級を持っている方を採用して，自分で育てた方がよりよい教諭を早く育成できる。２級と１級の差の金額を２年間分の差額をつけて雇うというと，私立ではなかなか難しい。しかし，公立だとできる。一方，公立の１級を持っている先生方の質の高いかどうかというのは，（短大卒後の）２年間の実務経験と（大学在学）４年間の差。どの先生も一人前までには３年間かかる。その３年間は投資。そうすると，はこだて幼稚園の場合は，もう最初から高い給料で投資をかけるということになるが，それだけの費用対効果を，子どもたち２０名，３０名の子ども達にかける，その子どもたちにだけ税金を使うというのは，私には納得できない。逆に言うと，認定こども園になって１級免許状を優先させるという国の方策に従って，私立幼稚園が１級の先生を採用したときには，道の８千円もいかないくらいお金よりも，函館市が独自に毎月１万円くらい出すくらいの価値観を持っていただいた方がよりよいと思う。
万年橋幼稚園も日吉幼稚園も，松風幼稚園も廃園になったときも，この「市民の声」のような声は何件かあった。もう子どもも少なくなってきているということと，必要性がそこにあるのかという部分では，これは公立の保育所も同じだ。民営化にしてみたり，廃園をかけたりしている。ただ，はこだて幼稚園というのは，歴史が長いからそう思う。それと，先ほども幼小の協議会の話があったが，うちの園は十何年前かにやめている。幼小の連携の仕方が違うんだ，と私は当時の会長にも，みんなにも言った。研究の仕方が違うのだ。ただ研究を見せ合っているということ。そういう意味では，うちは鍛神小学校と必ず２回ほど交流しており，小学５年生が遊びに来て交流する。逆にうちが小学校に行って遊ぶ。先生方もそれを見ながら研究しあう。順番制でやることについて，そうじゃないっていう考え方っていうのは，今でも私は打破していないと思う。これはなぜかというと，公立の校長先

生が会長だからだ。はこだて幼稚園の園長が会長になるっていうのが決まっている会だ。そして，副会長には附属の園長先生が副会長になる。あとは私立の会長が副会長になる。それでもって保っていた会。３年くらい前か，小学校の方で引き継ぎシートを作った。どこで決まったかというと，きっと幼稚園協会と小学校校長会で決まっただろうが，それは，そこの会員だけであって，会員でなければ何も連絡しない。それが従来からの函幼協。私としては，ここに認定こども園という言葉を入れたのは，私立の幼稚園が認定こども園になっているから名前を変えたのだろうとしか僕は思ってはいない。幼小の連絡協議会というものは，もっと形を変えて公のところできちんと教育委員会なり校長会がみんな集まって連携を図るっていう部分がもっともっと大事だと。私は，連携を図るより，子どもたちとの疎通を図るというのが，これからのスタイルでなければならないと思う。それには，幼稚園と小学校だけではだめだ。保育園の年長さんあたりも入れていかなければ。もう幼稚園と小学校という連携だけではなくて，小学校にあがる子どもたち全員との関わりというのが，保育園も入っていかなければならないそういう時代だろうと。保育園協会の会長さんとかも交えた連携というのがこれからもっともっと必要になるだろうと僕は思う。そういう意味では，公立幼稚園が中心となってといっても無理がある。連携って言う部分は考えていかなければならないのかなと。これは幼稚園側から小中のPTAを見た場合，保育園もやっぱり同じ小学校にあがるということ。

今は保育園も幼稚園の区別ない。すべての函館市の子どもたちをどうやって函館市で育ててあげるかっていうところを大事にしてあげなければならないと僕は思っているので，その中に，はこだて幼稚園が中心的，今までやってきたことを考えると，私はできないだろうというふうに思っている。

（鳴海会長）

まず，齊藤委員のほうからはこだて幼稚園を閉じることによって予想されるデメリットのお話があったが，新制度になり，幼稚園・保育園も形を変えている時代に新たな連携の形みたいなものを考えてみると，函館市内では柏野小学校とちとせ幼稚園さんがスタートカリキュラムって言って，入学してから，いきなり子どもたちが戸惑わないようにということで，地域の中で何年も前から連携されながらという実践もある。小学校としても保育園との関わりなどは，これからも考えていかなければならないし，先ほどの幼小の連絡協議会も，隔年で公開保育・公開授業ということで，はこだて幼稚園が中心となって事務局的なことをされたのだろうけど。

（木村委員）

そうじゃないやり方もあると提言したけれども，当時言われたのは，小学校は隔

年で実施する学校が決まっているから，１０年間は変えられません。これが答えだった。小学校長会がそういうことを言うはずがないと思うが，その当時はその当時の考え方があったと思う。でも，次世代育成法が出来たときから，０歳児から１８歳までは，函館市としてどうやってその子どもたちを育てるんだっていうことになった。それでも足りず，先般子ども条例が制定されたっていうふうに思う。あれも今４月１日から始まるのだけれども，人権だとかいろんな問題はあるかもしれないけれども，そうじゃなくて，取り巻く環境，子どもたちにとって良い環境づくりをしてあげるっていう部分の中で，やはり一部の子どもたちにとってだけいいっていう部分はそうではないし，全部同じだという立場を考えないと無理だろうと思う。教育大学さんの子どもたちが幼稚園教諭の免許をとりたくても実習がままならないっていうのであれば，それは，私立の幼稚園もあるはずだし，幼小の会合の中でも公立でなければ受け入れてもらえない，受け入れないものかどうか僕はわからないが，養成校も２校あり，何月から何人受けてもらえないかっていう調整はしながら，私立の幼稚園も実習は受け入れているっていう，これは，札幌からのUターン組の人たちにも窓を開けるというように各幼稚園でも受けてやっているところはあるので，何も教育大学さんはお断りしたことはあるのかないのか，僕は受けたことがないのでわからないが，それが１級だからその部分でなければダメなのかどうかは，僕はちょっとわからない。国立さんだから公立に依存しなければならないものなのかどうか，私はちょっとわからないが，どの教諭も１級２級だろうが格差なく子どもたちを育ててもらうためにはいい先生を作ってもらうっていうのは養成校としては大事なことだろうと思うし，はこだて幼稚園がなくなることによって，先生の質が落ちるということは違うのではないかなと。そこの部分もケアできるだけの体制づくりは，どこでもできるだろうと私は思っている。

（鳴海会長）
乳井委員。

（乳井委員）
公立と私立の違いっていうのはいつの時代もある。齊藤委員がおっしゃったように，教育大学は公立だけですね，実習は。ただ昔はたくさんあった。今もう２園しかない。現実問題無理だ。そういう中でも私学は全部受け入れる，要請があれば。一声かけてくれれば，いくらでも対応できる，そういう面は絶対あると思うし，ちょっと視点変えるけれども，幼稚園教諭と保育士の関係。結局，その区別はもう無しにしなければいけないはずだが，それがなかなかうまくいかない。そういう現実がまだやっぱり残っている。だから，幼稚園が幼稚園だけで頑張りたいというの

は，要するに幼稚園の先生が保育士の仕事はしたくないというのも，実際にはある。職務が相当違うので。ただ，それはやめようっていう流れだから，子育て支援っていう一つのグループの中で，幼稚園の先生も保育士さんも区別はないだろうとスタンスを変えなきゃいけない。これはもう無理やり強制的に変えなきゃいけないということであるので，うちも養成校で学生育てているが，考え方を完全に去年，一昨年あたりから変えている。要は，幼稚園の先生になりたい，保育士になりたいは，もうないということで，両方持っている保育教諭になれっていう，そうじゃないと幼児教育は務まらない。それはもう一本化したので，幼稚園と保育所の区別がなければ，幼稚園教諭と保育士の区別もない。どっちも持っていて当たり前，どっちもできなきゃ使い物にならないというそういう発想に立っている。それが崩れることはないと思うので，そういうスタンスで今後どうしていくのかというのを，はこだて幼稚園なりに考えなきゃいけないということ。それがうまくできるところできないところがあるというのもまた事実なので，その辺を考えていくしか。先ほど言ったように，考え方に従ってとりあえずそんなうまくいかないのであれば，一回閉じて，それで認定こども園とかになると保育士も幼稚園の先生も区別はなくなるから，そういうスタンスで頑張っていくというのであれば納得がいく。税金かける価値もある。一部の特定の方だけのためのものというブランド化だが，ブランド幼稚園として存続するであれば，公立ではなく私立ではないかなと思う。東京にはいくつかあるが。公立でそれを行うと，おっしゃっているように税金の使いみちとして，どうなのだろうという話になる気がする。

（鳴海会長）

子ども・子育て支援の新制度っていう形でスタートしている現在，幼稚園・保育園という視点から，養成の中でも両方なければという時代だと。そういう状況から考えても，幼稚園，公立の幼稚園として今後さらに充実した教育を提供するということで，どうなのかなという話を聞きながら思ったが，方向性としては，はこだて幼稚園，戸井幼稚園も含めて新しい形にこう変わることは難しい状況には変わりないと思う。

案の中で示されている，平成３１年３月という予定の，はこだて幼稚園を閉じるという，それまでまだ何年かあるので，齊藤委員から出された課題，それはさっき話した今後研究する実践の場を教育センターという話があったけれども，具体的にどのような形でやるのか。総務常任委員会でもそういう２つにかかわって連携と幼児教育っていうのに研究について今後どのような形で進めていくかっていうことを研究していく必要がある，こういうものが出されていますので，そういうことを考えながら，３１年までできることは何かっていうことを委員会でも考え，教育実習

の話だが，実際，私立に実習をお願いすることはどうか。

（齊藤委員）

実際，私どもでも私学の大学さんや短大さんの実習生を受け入れている。その方々は２週間で実習をお願いしますと直にこちら側に来るので，その大学さんや短大さんとお話をしながら，この時期ならお受けできますということをやっている。現場に入るということになると，うちの方も先生も少ないし，クラス数も少なく，一度にたくさんは入れないので，今年の場合については，３名はこだて幼稚園に行っていただいたが，そうことは，大学側からお願いしますというかたちで了承を得て進んでいるところだ。今話を聞いて，私立幼稚園さんが受けてくださるとなった場合については，事前講義の方はこちらの方で担当して，指導案の書き方などはやはり現場の幼稚園さんでやられている方法で行ってもらっている。また，大学の先生も見に来るなどの設定された場があるので，そこも設定しながらやっていただくということで，結構なご負担にはなるのかなとは思うので，今は公立でお願いしてやっていただいたところがあるのかなと。ただ，このような受け皿として，積極的にやってくださるとか，それから道の国公立幼稚園協会で背負っていることとか，市の幼稚園協会で背負ってやっていることなども分担しながら，私立幼稚園さんでやってくださるという土壌があるならば，先ほどのお話を聞いて，可能ではあるかなと。でも，先ほど乳井先生がおっしゃったように一回は閉じるとして，そして今後いろいろな形を練って，函館市として認定こども園というのが必要ではないかなとは思う。ですから，そこで，もうこれで幼稚園はおしまい，人数がいないからダメ，っていう言い方では絶対終われない部分があって，この後のこともこのように検討しているとか，ここはこういう考え方だというようなところは整理をしておかなければ，すぐには閉じますというわけにはいかないのではないかなと。とても大きなお仕事をされてきたはこだて幼稚園だから，それらを皆で納得のいく形に一生懸命考えるのが私達なのかなと。先ほど私が言った５つに関しては，私は納得しました。木村先生，乳井先生のおっしゃったところで，私は納得できたところがあるので，この他にもいろんな見方があるところがあるので，そのような説明と今後の見通しみたいなものがきちんとされれば，この「市民の声」のような声は少なくなるのではないかなと思う。

（鳴海会長）

今後，閉園後についてどうすべきか，今すぐは委員会の方でも考えてはいないと思うが，求めている方は一部なのかもしれないが，今後の見通しがわかるような説明，その具体案を今後，委員会で充分検討していただいて，３年後ということで，

案の中でも示されているので，その間に何をするかっていうことを考えながら，進めていただきたいと思う。それでは時間も１時間くらい経ったが，戸井幼稚園については，前回お話あったが，当面地域に代替，受け皿がないという状況，ただ，戸井幼稚園ではない幼稚園に通園している実態もあるということだが，当面，戸井幼稚園については存続っていう形で進めていくのはいかがか。

（乳井委員）
必要だとはわかるが，この園児数が続いて，本当に必要なのかなということはちょっとある。

（高松委員）
親が思うところと，子どもの思うところがやっぱり子どもはたぶんそこまで考えていないと思うし，たくさん友達ができたら，１５人の中で性格の合う子どもを見つけると１人，２人となるけれど，たくさんいるとその中で合う子っていうのが見つけやすいっていうのもある。人数の多いところに通わせて思ったところもある。そうであれば，バスで通える距離なのではないかなと思うと，順番というものがあるのかもしれないが，一遍になくすと批判も多くなるのかもしれないとは思うが，先ほどの，はこだて幼稚園と同じ考えに戻ってくるのでないかと思う。

（鳴海会長）
その当面という当面が，どの程度の当面なのかということは，ちょっとまだ見えないところだが，今，公立の小・中学校でも統廃合は進んでいる状況だ。そこは，子どもたちの様々な教育活動が少人数，いわゆる単学級１学年１学級でクラス替えがない，中学校だと基本的に各学年３学級，１校９学級ということで，幼稚園も同じような考え方で，この園児数の中では見定めると，戸井幼稚園もそんなに長くなく，ということだろうか。

（木村委員）
戸井幼稚園をはこだて幼稚園にしたらどうか。はこだて幼稚園を戸井幼稚園に。まず，やってみて，はこだて幼稚園っていうネーム，戸井幼稚園といっても，今は合併して函館市なので，はこだて幼稚園さんを選んでいる保護者はどこにあってもはこだて幼稚園に行くだろうと思うし，はこだて幼稚園を一回戸井幼稚園に。

（齊藤委員）
そう考えました，はこだて戸井幼稚園とか。とにかくはこだて幼稚園さんを潰す

っていうよりも今２つでやっているところがあるので，２つを１つにする。で，はこだて幼稚園さんの箱物も，今，例えば函館市さんでどこかに貸すとか，売却するっていう予定があるのであれば，こちらの方はそのままされればいいし，はこだて幼稚園自体は，戸井幼稚園さんと一緒に，はこだて戸井幼稚園でもいい。もしくは，中間地点にでも，函館市の認定こども園を作るという形にするとか。箱物という考え方も出てきて，そこをどうするかということもあるかもしれないが，今おっしゃったように２つが一緒になるというのはいい。

（木村委員）
人数が少ないからというのと，戸井幼稚園さんの場合は，はこだて幼稚園さんより小さいが，戸井幼稚園さんには地域性がある。どうしても保育所が離れている。漁業のほうが多かったので，そういう意味では季節的な保育所がほんとはあればよかったのだろうと思うが，戸井幼稚園自体も西と東が一つになった経過もあるし，はこだて幼稚園を一回戸井幼稚園に，と，戸井幼稚園の名前はどちらでもいいが，また推移をみて決めるというのも１つの案かなと。

（齊藤委員）
そうなると，先ほど私が話をした道の国公立幼稚園協会のことに関しては，はこだて幼稚園がなくなったら，戸井幼稚園さんにお願いをすることになると思う。基本的には人事交流があるので，幼稚園教諭同士の交流があり，何人かはいなくなるが，２つでやりあえるということを考えると，今のおっしゃっていることもそうかなと思う。

（木村委員）
推移を見るという意味ではね。しかし，４０人くらい，本来的に集団っていうものを考えると，３歳から５歳が一体の集団と考えるのか，３，４，５歳の横割りだけの集団だけでいくのか，としたときに，年長さんが１５人だとして，そこで友達ができたとしても，友達ができる力，集団活動ができるっていうものになりうるのかといったら，私は難しいと思っている。横でいったら，最低でも２０名近くいるべきだろうと。今の函館市はやっていないけれども，小規模保育所だったら１５人以下だが，１５人が集団なのか何なのか，という問題は最後まで残る。親の目から見ると，保護者から見ると，自分の子どもの先生が子どもの人数が少なくて見てくれるところが一番いいと考えるのだろうと思う。でも，先生が1:1でも1:5になろうと，子どもにとってはそれだけ狭まる。人との関わりが狭まる。今３０人学級とか２５人学級だとか進んでいるが，それだけ友達づくりがだんだん難しくなっている

のではないかと僕は思う。極端な話をしたら，（統合は）一回はやってみては，っていう話です。何回集まっても同じ議論にしかならないのかなと。この協議会は提言をすればいいのか。

（事務局）
　あり方案を見ていただいて，このあり方案の妥当性とそれに対する要望とか，そういったものを提言，提言っていうか，会としての提言ではなくて，合議体としてそういう意見があがったっていうことを最終的にまとめていただければと思う。

（木村委員）まとまらなかったらまとまらないでも。

（事務局）
　そうですね。ここは決めるという場ではない。

（木村委員）
　僕達が決められる問題ではないと思っている。ただ，意見としては，廃止でもかまわない。この趣旨には賛同する。ただ，いろんな角度の中で，市側で考えて，こういう考え方もあるのかといったら，一旦はこだて幼稚園と戸井幼稚園と統合するというのが，一番だろうと。
　ただし，統合については，それなりの使命感をもってやれる体制づくりをそこの職員や園長先生ができるかできないかっていう，僕はそちらの方がかえって重荷になるのではないかと思う。

（鳴海会長）
　方向性としては，１回目と２回目ということで，なんとなく見えてきていると思う。今日，たくさん出たデメリットの部分や斬新な戸井幼稚園をはこだて幼稚園と統合という，そんな意見もあった。はこだて幼稚園のあり方・戸井幼稚園のあり方については，はこだて幼稚園は閉じていく，戸井幼稚園はどういう形になるのかはわからないが，いずれにしても残すのであれば，それなりの使命なり，役割みたいなものがどういう形で戸井幼稚園に課せられていくべきだ。

（木村委員）
　一時的でも，これを見ると，はこだて幼稚園の閉める時期は目指しているみたいに見える。戸井幼稚園については，様子をみながら検討していくということなので，戸井幼稚園が存続するためには，はこだて幼稚園の方々がそちらに移られてい

く方向だって何も構わない，と僕は思う。

（齊藤委員）
　戸井幼稚園さんにはバスがある。はこだて幼稚園にはバスがないので，行くのであれば函館市でバスを走らせてという形になるのだろうか。

（木村委員）
　はこだて幼稚園に通っている方で遠いのは昭和，桔梗か。

（鳴海会長）
　ここ本庁管内が８割を占めている。

（木村委員）
　ここから戸井幼稚園まで車で行っても，桔梗から戸井幼稚園にいくのも同じだ。

（齊藤委員）
　４５分くらいかかる。

（事務局）
　バスについては，小・中学校の混乗なので，幼稚園専用というわけではない。

（木村委員）
　幼稚園のためにバスを出したら，他の地域の人たちに負担をかけすぎるということになる。教育委員会では出せないのではないか。

（鳴海会長）
　今日で終了とも考えていたが，今日出された課題を委員会の方で整理し，まずは，幼小の連携の円滑な推進，幼児教育の研究実践の場としての役割，総務常任委員会で出されたことに対して，このあり方の案でいいのかどうかということと，今日出された意見を含め，あり方の案の修正というのでしょうか，そのあたりも委員会で検討していただくということで。協議会はもう１回，最低１回行うということで。多面的・多角的なという部分，この会としての要望を委員会の方で踏まえて，あり方案について修正等があれば，また提示していただくということで今日は閉じたいと思うがよいか。

（事務局）
　もし，我々のあり方案について，委員の皆さんからこういう修正を加えた方がいいというご意見があれば，それもいただきたい。

（乳井委員）
　次回，これまでにやったことのまとめたものを見せてもらって，それでよいかどうか決めれば，それでいい。

（鳴海会長）
　それでは，改めて前回示されたあり方案など再度資料等に目を通していただき，また，この部分を加えた方がいいだとか，ご意見をいただければ。
　今日はこれで閉じたいと思う。

４　閉会